

第365回
日本泌尿器科学会新潟地方会
(高橋公太教授日本医師会医学賞受賞記念講演会)
《 プ ロ グ ラ ム 》

日 時：平成25年3月9日(土) 午後2時30分
会 場：イタリア軒 5階 『春日の間』
新潟市中央区西堀通7 025-224-5111

次回 第366回新潟地方会予告
期 日：平成25年6月8日(土)
会 場：イタリア軒
(信州・山梨・新潟合同地方会)
演題申込期限：平成25年5月中旬

※ PC発表のみです。

※ 口演時間は、1題6分。討論3分(時間厳守)

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通1の757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野
日本泌尿器科学会新潟地方会
会長 高橋公太
TEL：025(227)2289/FAX：025(227)0784

1. 新潟大学医歯学総合病院泌尿器科における 2012 年手術統計

新潟大学腎泌尿器病態学分野

小松集一、黒木大生、山口峻介、星井達彦、笠原 隆、
新井 啓、谷川俊貴、西山 勉、高橋公太

2012 年の手術室での手術件数は 384 件、密封小線源療法 (LDR) は 13 件、高線量率組織内照射療法 (HDR) は 33 件、計 430 件であった。なお、LDR、HDR は前年と比べてほぼ横ばい (それぞれ前年 15 例、37 件) であった。2007 年 7 月から LDR、2009 年 6 月から HDR を開始し、2012 年 12 月末の時点でそれぞれ計 90 件、計 124 件と順調に症例を重ねており、当科では限局性前立腺癌に対する治療法として定着しつつある。

2. 長岡中央総合病院 2008-2012年の手術統計

厚生連長岡中央総合病院

高橋英祐、照沼正博、鳥羽智貴、秋山さや香

当院の5年間の手術統計を報告する。ESWLは642例、手術は2422例(2591件)に施行された。件数順に前立腺生検911件、TUR-BT 620件、TUR-P 175件、DJカテ挿入107件、膀胱碎石術74件であった。メジャー手術は根治的腎摘術、腎部分切除術56件、腎尿管全摘術33件、膀胱全摘術15件、前立腺全摘術42件であった。緊急手術は173例に施行され、件数順にDJカテ挿入68件、PNS44件、TUC15件であった。

3. 新潟県立中央病院における泌尿器科手術統計

新潟県立中央病院 片桐明善、水澤隆樹、村山慎一郎

新潟県立中央病院において 2012 年に手術室にて手術・検査がのべ 409 名に施行され、別に体外衝撃波結石破砕術が 62 名に 187 回施行された。腎腫瘍では根治的腎摘除術が減少し腎部部分切除術が増加した。腎尿管全摘除術は増加傾向で、Pluck 法が多く併施されていた。主な腹腔鏡手術は副腎摘除術と腎尿管全摘術となっていた。TUR-P は減少傾向であった。過去 10 年余の経過を含めて報告する。

4. 新潟市民病院における 2011、2012 年の手術統計

(2004 年からの経年的変化と合わせて)

新潟市民病院 今井智之、川上芳明、筒井寿基

2011 年、12 年の手術室における手術件数はそれぞれ 652、661 件であり増加傾向にあった。件数の多い上位手術に変化はなかったが、近年該当外来患者の減少や他院へ手術をお願いしている影響で、結石手術や TURP が減っていた。一方、寝たきり患者の膀胱出血に対する膀胱止血術や、泌尿器以外の癌に由来する尿管閉塞へのステント留置、PNS が増えていた。また大腸癌の前立腺再発や下大静脈塞栓を伴う腎転移例を経験し、今後、ADL の低い患者の手術や他癌の泌尿生殖器再発・浸潤の摘除が増えると思われた。

5. 化学療法中の膀胱癌に発症した無症候性の肺血栓塞栓症の2例

立川総合病院 泌尿器科 田所 央, 安楽 力, 上原 徹

【症例1】64歳, 男性. 膀胱癌多発肝転移に対してGC療法を開始. 2コース後の評価のCTで肺血栓塞栓症の所見あり. 抗凝固療法を開始した. 【症例2】56歳, 男性. 膀胱癌骨盤内リンパ節転移に対してGC療法を開始. 5コース後の評価のCTで肺血栓塞栓症, 深部静脈血栓症の所見あり. 抗凝固療法, 下大静脈フィルター留置を行った. 【考察】悪性腫瘍および化学療法は静脈血栓塞栓症のリスク因子であり, それを念頭に置いたフォローが必要である.

6. 前立腺癌のアンドロゲン抑制療法中に耐糖能が増悪した1例

下関市立済生会豊浦病院¹⁾, 和田医院²⁾

日高幸浩・廣吉俊哉・安井平蔵・上領頼啓¹⁾, 和田 聡²⁾

症例は65才, 男性. 1998年に糖尿病と診断, HbA1c6%台で経過していた. 2011年10月前立腺癌と診断され根治的前立腺全摘術施行したが, 切除断端陽性のためホルモン療法を開始した. 投与14ヶ月後著明な高血糖を生じ, ホルモン療法による耐糖能異常を疑いホルモン療法を中止し, その後糖尿病の改善が認められた. アンドロゲン抑制療法治療中に耐糖能の増悪を認めた1症例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する.

15:24~16:09

座長 原 昇

7. 当院における前立腺全摘156症例の全摘標本から見た針生検・MRI

の評価

新潟労災病院 泌尿器科 秋山さや香, 羽場 知己, 小池 宏

当院では2003年11月から2012年12月までに156例の前立腺全摘術を施行した. それらの針生検やMRIによる術前診断を, 実際の全摘標本に照らし合わせて腫瘍局在や悪性度を比較することにより, 術前検査の的中率につき検討した. また, 近年, 低リスク前立腺癌に対し, PSA監視療法が治療選択肢の1つとして挙げられるようになったが, 当院では基本的に行っていない. PSA監視療法を選択しえた34例の全摘標本からその妥当性について考察する.

8. 当院の膀胱全摘症例の検討

新潟県立がんセンター新潟病院泌尿器科

信下智広, 小林和博, 斎藤俊弘, 北村康男, 林 博文

【目的】当院の膀胱全摘術を施行された症例について検討した. 【対象】2011年12月までに292例に膀胱全摘術を施行した. 【結果】5年生存率は51%であった. 【考察】浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘術の治療成績は5年生存率が50~60%とされており, 当院の成績も同等だと考えられた.

9. 転移性骨腫瘍に対するビスホスホネート製剤の投与間隔についての 検討

村上総合病院 泌尿器科 山名一寿

骨転移治療におけるビスホスホネート製剤の有用性に関しては、疼痛の緩和、骨関連事象の予防等で示されている。ただし、その至適投与間隔についてはまだ議論の余地を残しており、当院もその前向き研究に参加している。また、骨転移治療のモニタリングに関しては多数の骨代謝マーカーがあるにも関わらず、コンセンサスが得られていない。ASCOのガイドラインにおいても、モニターとして使用するにはエビデンスが足りないためと推奨していない。しかし、きめ細かい治療にはやはりモニタリングが必要であり、エビデンスの蓄積とともに今後はガイドラインにも取り入れられてくるものと考え。主にI型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)を骨転移治療の補助として使用した当科の取り組みを検討した。

10. 佐渡総合病院の取り組み

佐渡総合病院 泌尿器科 諏訪通博

当院泌尿器科は昭和63年5月に開設し、計16人の医師により佐渡島内の泌尿器科医療を担ってきた。平成23年11月に新病院に新築移転を行ったが、それに伴い、完全電子カルテシステム導入、放射線治療開始、核医学検査開始、麻酔科常勤体制整備など、地域基幹病院としての機能をほぼ確立し、佐渡島内で、ほとんどの治療が完結できる状況になりつつある。佐渡総合病院の特色ある取り組みと、現在の当院泌尿器科の現状について報告したい。

11. 外来における日帰り経会陰式前立腺生検の経験

会津クリニック 玉木 信

会津クリニックでは、外来にて日帰りで経直腸式前立腺生検を施行してきたが、2012年9月より日帰りにて経会陰式に変更し、2013年2月8日までに36例を経験した。生検の体位は膝肘位とし、麻酔は2%キシロカインゲル直腸内注入と0.625%ないし1%キシロカインによる会陰部局所麻酔の併用とした。生検は16箇所施行した。施行当初は苦痛を訴える例が多かったが、局所麻酔を低濃度にしても経直腸エコー下に広範囲に麻酔を行うことで苦痛度は改善し、外来日帰りにも充分施行可能と思われた。

16:10～16:30

【日本泌尿器科学会新潟地方会総会】

[休憩 16:30～17:00]

サテライトセミナー

日 時：平成25年3月9日（土）

17時00分～18時00分

会 場：イタリア軒 5階『春日の間』

17時00分～18時00分

司 会 長岡赤十字病院

院長 森 下 英 夫 先生

（新潟泌尿器科同窓会 会長）

「A B O血液型不適合腎移植への挑戦

—免疫学禁忌の克服と臨床応用の普及—

講 師 新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

教授 高 橋 公 太 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

第一三共株式会社

※ サテライトセミナー終了後、5階 写真室にて記念撮影を行います。

※ 記念撮影後、3階「サンマルコ」にて祝賀会となります。